

日常の療養支援から 看取りの場面での取組報告 ～その人らしい生き方に寄り添う～

小規模多機能ホームらしさ七重浜
ホーム長 波並 孝



小規模多機能居宅介護とは？

小規模多機能居宅介護の概要

- 2006年（平成18年）に介護保険法に誕生。
- 介護保険法制度化前は『宅老所』の名称で存在。
- 介護が必要となった高齢者が、住み慣れた家・地域での生活を継続することを支援するのが目的。
- 定員29名。通い：18名、以下　泊まり：9名以下。

小規模多機能の特徴

365日対応



通い



泊まり



訪問

本当は誰もが望んでいる生活

「尊厳ある生活」 日常生活における自由な自己決定の積み重ね

- 自宅の良さ・ ・ ・ 介護が必要になった時でも、介護のために自分の生活や自由を犠牲にすることなく、自分らしい生活を続けることができる。

自分で立てた

スケジュールに沿って

日常生活を営む

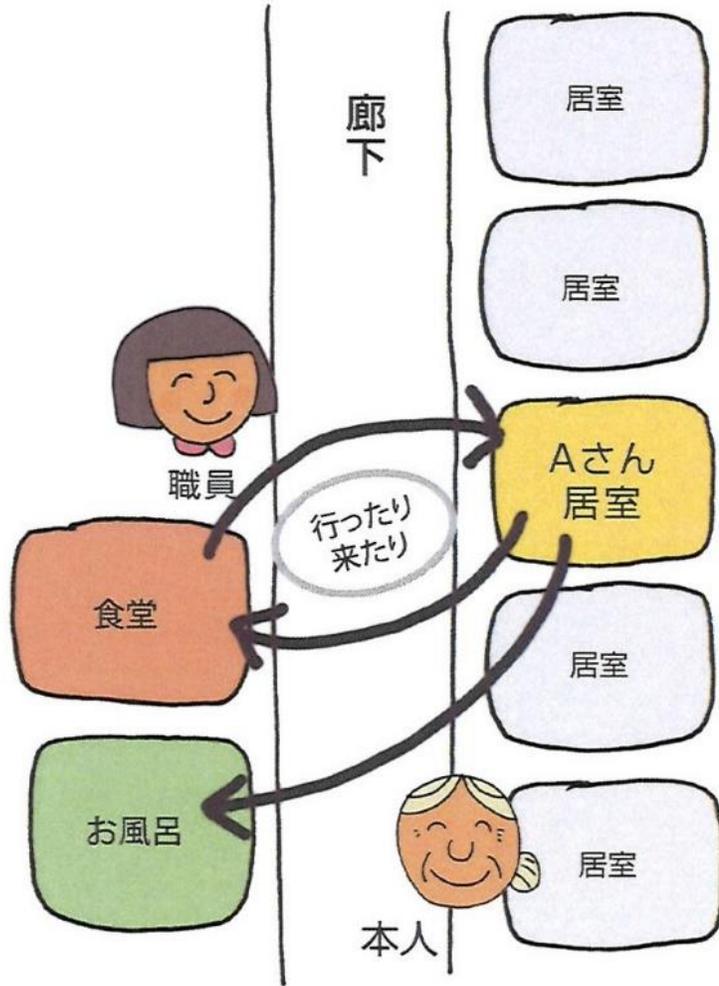


自宅では
私が主人公



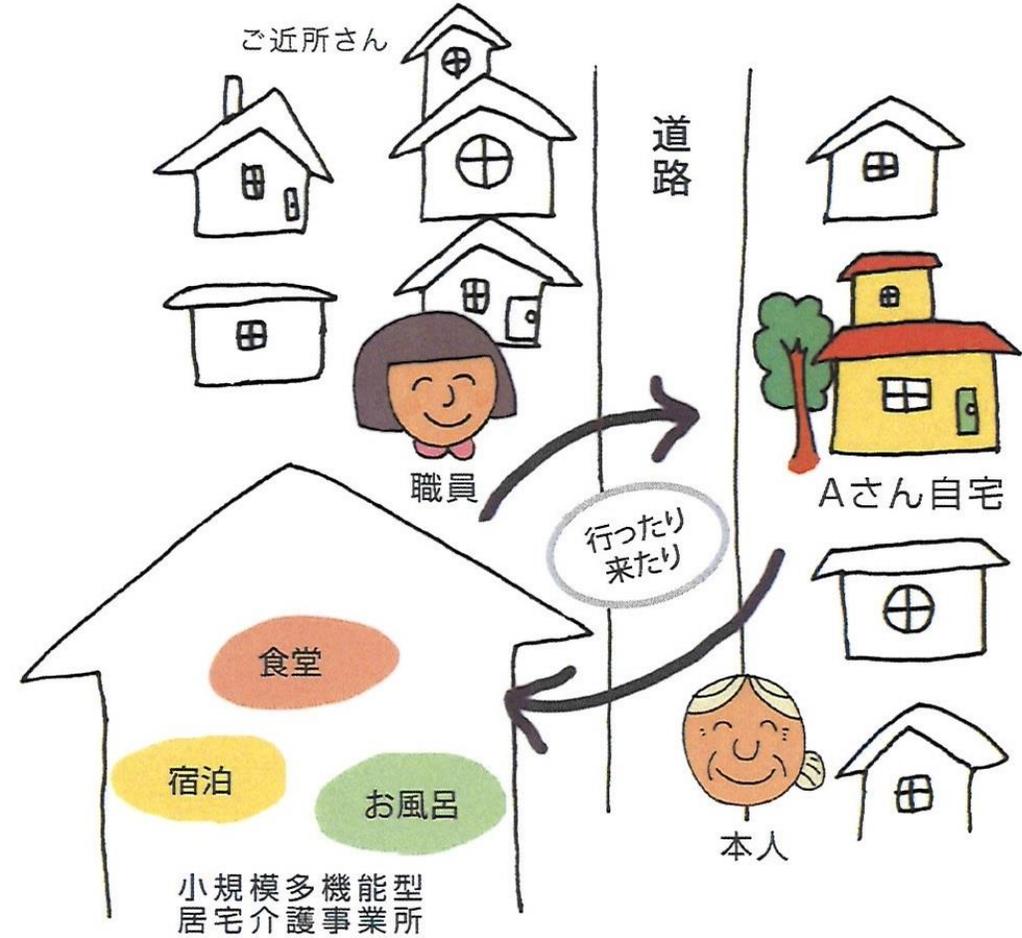
施設

施設の建物の中で



小規模多機能型居宅介護

地域の中で、自宅を中心に



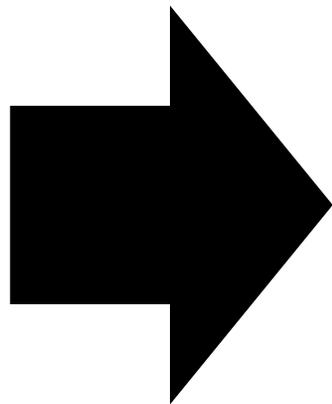
利用者の特徴

利用開始期は要支援や要介護1～2の方など比較的軽度の状態であることが多い

「想い」



「想い」



「繋ぐ」

想いを繋ぐために

- ・ 支援経過を内容ごとに分類
- ・ 「ACP」というカテゴリーを作って記録を集める。



- ・ 本人の「思い」をスタッフ皆で共有が出来るようになった。
- ・ 抽出しやすくなったことで、心の変化も見えやすくなった。

整容	カテゴリー	重要度	日付	時刻
外出・行事	 入浴	-	2023-10-11	11:12
シナプソロジー	 体調不良 入浴	-	2023-10-11	11:10
レクリエーション	 訪問	-	2023-10-11	11:10
体操（午前・午後）	 薬 訪問	-	2023-10-11	11:08
病院・受診	 バイタル 訪問	-	2023-10-11	10:45
訪問診療・往診	 BPSD・精神状態 訪問	重要	2023-10-11	10:45
金銭管理	 病院・受診	重要	2023-10-11	10:40
買い物	 BPSD・精神状態 薬	重要	2023-10-11	10:34
報連相	 病院・受診	-	2023-10-11	10:30
ACP				
カンファレンス				
サービス内容				
売店				
事故・ヒヤリ				
その他				

「想い」に触れる場面 (※らしさの場合)

- 「想い」や「心の変化」に触れる場面はカンファレンスのような話し合いの場よりも、何気ない日常の中に多い。
- 「夜勤の時」や「入浴の時」、「通院時の待ち時間」など一対一の場面が多い。
- 心を許している職員に話し始める方が多い。
- 管理者やケアマネジャーの方が良い場合もある。

時にミラクルが起こる！！

- らしさ七重浜開設当初から利用して下さっているTさん。
 - 以前は家族への想い、らしさへの想い、そしてこれからのことを色々と話してくれたTさん。
 - 近年は加齢と認知症の進行により「ワシわかんねーんだ！」とはぐらかすしようになっていたが、ある夜、開設当初から長く関わっている職員に今の「想い」をはっきりと話してくれた。
 - こんな風に話してくれたのは何年振りだろう。
-
- このような事はいつも起こる訳ではない。
 - ただの偶然ではなく、必然だと思いたい。
 - 「想い」は構築された関係性があってはじめて引き出せるもの。
 - 利用者と共に沢山の充実した時間を過ごすことができる多機能型サービスの強みと言えるのではないか。

「想い」を繋ぐ

ある利用者の看取り期のカンファレンス

利用者の「想い」を家族に伝えた際、

「私たち、(母とは) そういう話をしたことが全くないんです。

(母は) そういう風に思ってたんですね。聞けて良かったです！」

- 本人から受け取った「想い」を大切なお家族へ繋ぐことの大切さを実感。
- ご家族と同様にこれから施設入所される方の場合は入所先の施設職員にもしっかりと思いを繋げていきたい。
- 利用者が 「想い」を伝えて下さる瞬間を見逃がさないように、支援に関わる一人ひとりが準備をしていくことが大切だと思う。

判断を助けてくれる

- ・ 本人や家族と「思い」を共有出来ていれば、緊急事態が発生した場合の判断を助けてくれる可能性がある。
- ・ 本人や家族の望んでいない心肺蘇生を行う必要がなくなるかもしれない。
- ・ 主に介護職員が感じる「何か（緊急事態）あったらどうしよう・・・」という不安を和らげることにも繋がる。

- らしさを七重浜開設当初から利用してくださっていたご夫婦。
- その人柄から「おとうさん」「おかあさん」とスタッフからも慕われていた。
- 「おとうさん」は加齢に伴い、徐々に機能低下が進む。
- 在宅生活を継続するために、二人の意向をふまえて話し合いを重ねていく。
- 自宅⇄らしさを رفتりきたりする日々。徐々にらしさで過ごす時間が増えていく。

お父さんの「想い」

- 「息子さんに会いたいですか？」
→ 『そりゃ会いたいよ』
- 「息子さんにお父さんが体調悪い事知らせた方がいいかい？」
→ 『それはダメだ、心配かけたくない』
- 「食べたり飲んだりするのは辛い？」
→ 『辛い！いつも必死だ！もう無理だ、、、』
- 「食べたり飲んだりできなくなったら点滴になってしまうよ？」
→ 頷く
- 「病院に入院になるかも」
→ 『それは嫌だ…ここがいい』 「あれ（妻）に会いたい」
- 「身体がこわい」、「いつもすまん、、、」

わたしたちに何が出来るのか？

お母さん、主治医、らしさ。

皆で話し合い、考えて、

わたしたちが出した答えは、、、

二人の時間を
作ってあげたい

令和4年12月 脳出血を発症し緊急入院。

この時点では大事には至らず、その後リハビリも開始されました。

2週間後、リハビリ中に意識消失。

脳梗塞を発症し緊急手術。

手術は無事に成功し、一命はとりとめました。後遺症（認知機能低下、失語症）が残ってしまった。

そして経口摂取が困難となったが嚥下に大きな問題はない。認知機能や意欲の低下、環境が影響しているのではないか？

私たちに何が出来るか・・・

2023.3月23日



**入院してから3ヶ月半が経過
ICの目**

家族と相談し経口摂取を取り戻すための前向きな胃瘻増設を決めました。

胃瘻増設のために転院する日、らしさに立ち寄り皆で勇気づけました。

コロナ渦で面会が出来なかったこの頃。

どうしたらお母さんを勇気づけられるか？

病院スタッフに協力して頂き、TV電話やSNSで動画を送り続けました。

少しずつ経口摂取が出来るようになり、ついにはらしさに戻ってることが出来ました。

現在お父さんと一緒に過ごしたらしさで少しずつ元気を取り戻しています。

その人らしい生き方に寄り添う

- 想いを伝えてもらえるような関係作りが必要。
- 関係性を構築するためには時間が大切だが長さよりどう関わるかが重要。
- 想いを受け止めるための準備。（ふとした瞬間を逃さない。）
- 受け止めた想いをしっかり繋ぐ。（家族や支援チーム、施設職員に）
- 一緒に悩んで、考えて、自分達に出来る事を全力でやるだけ。

ご清聴ありがとうございました。

Facebook：らしさ七重浜

Instagram：rashisa_nanaehama